

# 交通機関バリアフリー進む

## 国交省調査

94%、旅客船乗り場と空港各100%で実施。旅客施設全体では前年比3%増の95%になった。

視覚障害者誘導用ブロックは鉄道駅とバスターミナル各97%、旅客船乗り場と空港各100%設置。施設全体では2%増の97%だった。障害者用トイレは鉄道駅92%、バスターミナル75%、旅客船乗り場と空港各100%設置。施設全体では4%増の92%になった。

このほか鉄道駅では、転落防止設備が99%、障害者対応型券売機が93%、案内設備が81%、拡幅改札口が98%に設置されていた。

また、移動等円滑化基準の適合車両は鉄道車両76%、ノンステップバス64%、リフト付バス6%、旅客船53%で導入。福祉タクシーは4400台増の4万1464台になった。

国土交通省は1月11日、2021年3月末現在の公共交通機関のバリアフリー化状況を公表した。バリアフリー法に基づき、1日当たりの平均利用者が3000人以上の旅客施設（鉄道駅3251カ所、バスターミナル36カ所、旅客船乗り場8カ所、空港16カ所）の状況をまとめた。段差の解消は鉄道駅95%、バスターミナル

（井口拓治）